

特集

シリーズ

5

議員のなり手不足解消に向けて

其三 幸田町議会議員選挙に立候補するには

立候補から投票 開票までの流れ

立候補者の条件

- 日本国民で満25歳以上であること
- 町議会議員の選挙権を持っていること
- 供託金15万円が必要



立候補の届け出

- 選挙の約1～2ヶ月前に「立候補予定者説明会」が選挙管理委員会により開催され、選挙の説明や立候補の届け出に関する書類等が配布
- 町議会議員立候補者の供託金は、法務局へ届け出が必要
供託金の没収点は、有効投票総数÷議員定数16×1/10未満
- 立候補の届け出は、告示日の1日間のみ
選挙管理委員会に、立候補に必要な書類を提出

さあ、あなたも立候補しましょう！

幸田町子ども会連絡協議会の方々と タウンミーティング

事前アンケート結果

議会・議員の活動で
思っていることは

【改善すべき点】

- ・議会だよりは読むが、一方的に情報を得るだけで、自分たちが何かを発信したり関連している、という感覚はあまりない。
 - ・活動は何しているかがよく分からない。
 - ・もう少し若い人が入ると良いのでは。
 - ・町会議員は高齢者が多いイメージ。
- 【議員活動の印象】
- ・すごく大変と思う。
 - ・町民のため日々話し合い実行してくれる。
 - ・先を見据えた気配りが必要。
 - ・子供たちの活動に力を貸してくれる方々。
 - ・毎日のように役場にきて、とても忙しい。

この他に、子ども会が抱えている課題などのアンケートをしたが、子供人数減や加入者減で役員の負担増となり、なり手不足を懸念する声が多い。組織のあり方への疑問も多く寄せられた。

タウンミーティング 結果

幸田町子ども会連絡協議会の役員の方々と、3月12日に行った。

若い人や女性が 議員になるには

- ・議員給与だけでは、生活が成り立たない。
- ・昼間は仕事のため、夜間などの議会開催であれば考えられる。
- ・家柄で推薦してくる古い体質があるため、若い人が出る環境にない。
- ・地元での知名度がな



子ども会連絡協議会の役員・顧問の皆さん

- いと出られない。
- ・根回しがあり、よそ者意識があると若い人は出にくい。
- ・年輩者の中には入りづらい。
- ・同区内で若い世代の地域の人と古くからの地域の人で、意見が異なることがある。
- ・若い世代の地域は、行政などに関わりにくい。
- ・小さい子供を持つ親は時間にかんりの制約がある。

子ども会のような団体 から議員を出すには

- ・今の仕事にやりがいがあると議員になりたいとは思わない。
- ・少し年をとり退職したら、考えるかも。
- ・子ども会は任期後はやめる。議員までのなり手はないと思う。
- ・会社が、議員になっても生活保障や復職できる環境であることが条件。

議会の活動をもっと 知ってもらうためには

- ・ライブ配信をするに関心が増す。
- ・職場で議会の様子を見られるようにしてほしい。
- ・ジャンル別にしたら自分の関係するところが直ぐに見れて良い。
- ・役場1階のスクリーンに、議会で決まったことをテロップで流すと町民が見る。

議員の所感

多様な人が議員を目指すには、地域の環境から変わっていかないと難しさがある。
YouTube配信の周知を含め、議会活動をもっとよく知ってもらうために、DX思考での発想が必要であると感じた。